

# わたしにとってのボランティア

## 次世代によるボランティアのいま

若者によるボランティア・市民活動は、若者の視点や感性、若者だからこそできることを活かしながら広がりを見せています。こうした若者の活動や思いを紹介することで、若者たちにとって「ボランティア」とは何か、さらに社協VCが若者とながら地域づくりを考えるきっかけを提供します。



山形大学  
地域教育文化学部  
4年  
にっ た  
新田 ゆいさん



東海大学  
山形高等学校3年  
ひら た れ な  
平田 寧々さん



山形県立  
山形東高等学校  
2年  
す ず き あ い こ  
鈴木 愛子さん



山形市立  
第二中学校1年  
あ ま の は な  
天野 花菜さん

第7回

山形県  
nico こえ

団体紹介

山形県青年の家がコーディネートするボランティアサークル。2021年に発足し、現在は中学生～大学生、社会人の約40名が参加。メンバー自身が活動内容を提案し、その呼びかけに賛同した仲間とともにさまざまな活動を行う。

## レモネードの販売を通じた小児がん支援活動が、 自らの経験や成長の場に

### 現在、どのような活動に 取り組んでいますか？

活動の大きな柱となっているのは、レモネードの販売し、その売上を小児がん支援に役立てる「山形レモネードスタンドプロジェクト」です。レモネードは、レモン果汁を砂糖水で割った手作りのものを販売したり、飲料メーカーが製造したペットボトルを販売することもあります。この「レモネードスタンド」はアメリカ発祥の小児がん支援の社会貢献プロジェクトで、近年、日本国内でも広がりを見せています。

このほかにも、nico こえでは地元の商店街の活性化をめざして、天童将棋駒をプレゼントするイベントを企画したり、地域のゴミ拾いをしたりと、楽しみながら活動に取り組んでいます。

今年からは地域のプロスポーツチームとも連携しています。サッカークラブ



山形ワイヴアンズと協働し、会場でレモネードスタンドを開催

「モンテディオ山形」のスタジアムではユニバーサルスポーツの体験コーナーを実施し、バスケットボールチーム「パスラポ山形ワイヴアンズ」の試合会場ではレモネードスタンドを開催しました。

### レモネードスタンドを始めた 経緯や思いは？

小児がん患者であった平田さんの呼びかけがきっかけです。小児がんに苦しむ子どもたちを少しでも支援したいと、nico こえのメンバーも平田さんの提案に応じました。活動においては「お金の支援」だけでなく「心の支援」も大切にしています。ポスターやリーフレット、SNSなどで情報を発信し、少しでも多くの方に小児がんについて理解を深めてもらいたいと思っています。

こうした取り組みのいかいもあり、最近は活動に対する賛同者が増えてきました。ほかのボランティアサークルのイベントや学校の文化祭、県内の企業などで、賛同者の方々がレモネードを販売してくださっています。さらに、レモン味のシュークリームを地元の菓子店とnico こえで共同開発し、その売上を小児がん支援に充てるプロジェクトも立ち上がるなど、レモネードスタンドの取り組みは自分たちでも驚くほど広がっています。

### nico こえにおける ボランティア活動の魅力とは？

学校や自宅以外に、もうひとつの居場所があるという安心感があります。そして、活動に対して「ありがとう」や「がんばってね」と声をかけてもらえることもうれしいですね。また、幅広い年代の方々と交流できるのも魅力です。多様な考え方にふれられるので、学びや気づきを得て成長することができます。ボランティア活動は支援する相手や地域のためだけでなく、自分のためにもなるのだと感じています。

今は学生なので行動範囲などに制約もありますが、これから大人になっていけばできることも増えていくはず。社会人になったら、より一層ボランティア活動に力を入れていきたいです。

### 社協VCが若者と つながるには？

山形県には50年近い歴史をもつ「YY（山形ヤング）ボランティア」があります。各市町村に学校の枠を越えて「地元」で活動するボランティアサークルが存在していますので、地域、学校、社協VCがつながる要素は十分もっています。ただ、やはり「先生」と直接つながることが大切です。県青年の家はそのマッチングも行っていきたくと思っています。

いし い たかゆき  
山形県青年の家 研修主査 石井 貴之さん

イベント・  
講座情報

(公財) 第36回ニッセイ財団シンポジウム「高齢社会を共に生きる」のご案内 (2023年12月9日(土)開催)

ニッセイ財団では、長年にわたり「共に生きる地域コミュニティづくり」をテーマに活動助成を続けている。助成成果を社会に還元することを目的に、1987年より統一テーマ「高齢社会を共に生きる」を掲げ、シンポジウムを開催しており、このたび第36回をハイブリッド形式にて実施。(詳細は「ニッセイ財団 シンポジウム」で検索)